

# 初めての報恩講

## 報恩講とは

報恩講とは、一言でいえば、親鸞さまの「法事のこと」です。真宗の最重要行事であり、七〇〇年以上にわたり大切にされ、伝えられてきました。しかし、核家族化のせいでしょうか、ご両親はあんなに大事にされていたのに、次の世代になると

全く存じないという方が急増はじめています。初めて耳にされた方も、どうか「温故知新の精神で、先達や先祖が大切に伝えてこられた意味を学び、後にも確かに伝えていただきますようお願いいたします。

## 報恩講は三つある

まず、ご門徒各家でつとめる「通り報恩講」。西教寺では、例年十月一日（今年は二日から）よりはじまります。一軒三〇分の目安でまわり、ほとんどのご門徒がつとめられます。

## その日は都合が悪いという方

ご都合の悪い方は、別の日時にお参りさせていただきますので、ご遠慮なくご一報下さい。また逆に、時間がないので、コース表通りの時間になければ困ると言う方も、ご遠慮なくお寺までお申し出下さい。

## ご理解とご協力を

「順番は分かるが、大体の時間が分からないものか」という声にお応えして、「朝八時から始まって一軒三〇分を目安に廻ります」とお知らせしました。すると今度は「もう来たのか」とか「まだ来ない」ということになって、逆に混乱の原因にもなってしまうました。急な変更が重なったり、ご門徒が亡くなられたりすると、すぐに一〜二時間は前後してしまいます。どうか前後一〜二時間まではご容赦下さいますようお願いいたします。



次に、全国の真宗各寺院では「お取り越し報恩講」をつとめます。ご命日を年内に取り越してつとめます。

そして、ご本山（西本願寺）では、一月十六の親鸞さまのご命日に、「ご正当（御正忌）報恩講」がつとまります。この日は本山にお参りします。しかし、本山へ参詣できない人のために、ご法義の厚い安芸地方では、各寺院でもご正当の法座を行っております。

## 報恩講の心がまえ

それでは、どのような心構えで報恩講をお迎えすればよいのでしょうか。

親鸞さまによると、仏さまの教えを聞き、心豊かに日々を送れるようになった人は、お育てに感謝して、少しでも仏法が弘まるよう、また世の中が安穩になるよう、できることを「報謝しなさい」と言われています。どうぞご家族、ご友人など、一人でも多くの方を誘ってご縁におあい下さい。

# 報恩講の準備は？

## おみがき（お掃除）

めつきしていないしんちゅう製の輪燈・おりん・仏飯器などは、仏壇店などで売っているしんちゅう磨きなどで磨きます。家族みんなでおみがきしましょう。

一方、真宗のご縁はあるんだけど、まだまだお寺に足が向かない人、心に安らぎがえられない人については、蓮如さまによると、

未安心の行者にいたりては（略）この砌において仏法の信・不信をあひたづねてこれを聴聞してまことの信心を決定すべくんば（蓮如上人『御俗姓』一三二二頁）

とあるように、納得するまで仏法を聞き、まことの智慧、今までの違う人生観をたまわって、新しい人生への機縁としましょう。

## お花

まごころをお供えするのですから、造花はご法度です。



## ローソク

普段横着して電気のローソクだけの人も、この日は本物のお光りをもしましょう。新しいのを出しておいて下さい。できれば、朱（しゆ）と灰皿をお忘れなく。

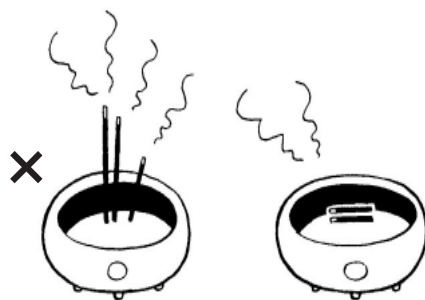


## お香

できるだけ良い香りのものにしてきましょう。香炉は灰をならしておきましょう。マッチの燃えカスは



香炉ではなく灰皿に入れるもので  
す。



線香は立てずにねかせます

〈お仏飯〉

これがなければ始まりません。  
両脇掛け（親鸞さま・蓮如さま）  
にもお忘れなく。



〈お供え物〉

日常つねにお供えするものはお仏  
飯だけです（仏さまには水・お  
茶・コーヒー・お酒・たばこ等は  
供えません）。また、頂き物をま  
ず仏さまにお供えするうるわしい  
習慣を大切にしましょう。



×

報恩講などの法要仏事の際は、  
お餅やお菓子等を適宜お供えしま  
す。お供えする順番は①「餅」②

「菓子」③「果物」の順です。ま  
た、お供えは、供筒（華足ともい  
う）や高杯に盛りますが、この辺  
で多い三方向が金濃（金色）、残  
りの三方向が黒の供筒は、金が正  
面に来るよう（黒が見えないよう  
に）するものです。



このように、裏側の黒が見えている  
のは×

御文章

「出し忘れ」をしたり、向きが  
「上下逆」になっているのが御文  
章。お持ちでない方は、お寺に  
相談下さい。



ちなみにお花、仏具、法事の

「お仏前」なども含めて、お供え  
物は皆同様の方向にを向けるのが  
作法です。お供えは私の手柄では  
なく、「おかげさまで」という心  
を表しているそうです。

お焼香道具

香炉を乗せるお盆・抹茶を忘れ  
ずに。



お念珠・お経の本

お念珠、お経の本を忘れずに。  
また、これらは直接地べたに置き  
ません。

おつとめ

お経はいっしょについてあげま  
す。老眼鏡を忘れずに。一昨年か  
ら、お正信傷も少しはゆつくりにな  
ったと思いますので、できるだけ

け多く方を誘ってご縁にお会い下  
さい。

真宗には必要ないもの

・お位牌（過去帳に書き換えま  
しょう）



× 神棚・お札・お守り  
破魔矢・他宗の本尊

歴史で学ぶ神祇不拜

親鸞さまは、神さまに対して「不  
侮（あなつらぬい）」とおっしゃ  
いますが、「神祇不拜（神さまを拜  
まない）」、「国王不礼（権力に阿  
ない）」という教えを説かれました。  
当時の権力者は、荘園や民衆の支配  
に宗教を利用していましたが、親鸞  
さまがこの教えで言おうとされたの  
は、「人生の不安」や「権威権力」  
に私たちがいかに向き合うのか、人  
間としての「まことの自立」を教え

てくださったのだと思います。

ところで、明治から敗戦までの国  
家も、ご存知のように同様に宗教を  
利用しました。神道を国教化し、大  
教院を設置して、全ての宗教の頂点  
に神道（＝天皇）を位置づけまし  
た。これに対して、浄土真宗は抵  
抗。一旦は大教院の廃止にまでたど  
り着きますが、政府は「神道非宗教  
論（神道は宗教ではなく国民の道徳  
（日本人なら当たり前）」に路線を  
変更します。その後の宗門は、各戸  
に神棚を祀るよう出された政府の指  
令に対して、一部抵抗もしますが、  
結論的には、神も戦争も国民の道  
徳、「あたりまえ」として、戦争に  
積極的に協力して行きました。

戦後は、国家が宗教を利用したり  
特定の宗教教育をすることは禁止さ  
れましたが、戦後六〇年、またぞろ  
教科書には、神道は宗教ではなく  
「伝統文化」として、また、新憲法  
草案には、「社会的儀礼」の「範囲  
内」として、政教分離規定は換骨奪  
胎され、神道教育と宗教を利用した  
政治が企図されています。私たちは  
これから、強権とさまざまな不安に  
どう向き合えばよいのでしょうか？  
何を拝み（大事に生きる）、拝ま  
ないのかが問われています。